

令和3年度岐南町・笠松町総合教育会議 議事録

令和3年5月21日(金)午前10時30分から、岐南町中央公民館 学習室で開催した。
その要旨は次のとおりである。

1 出席者

岐南町長	小 島 英 雄	笠松町長	古 田 聖 人
教育長	野 原 弘 康		
教育委員	久 納 万里子	教育委員	岩 井 弘 榮
教育委員	杉 江 正 博	教育委員	西 雅 代
岐南町副町長	坂 口 正	笠松町副町長	川 部 時 文
＜羽島郡二町教育委員会＞			
総務課長	石 川 恵	学校教育課長	五 藤 政 志
社会教育課長	堀 内 潤 一		
＜笠松町＞			
教育文化部長	足 立 篤 隆	教育文化課長	田 島 茂 樹
＜岐南町＞			
住民部長	堀 場 康 伸	生涯教育課長	堀 場 紀佐子
生涯教育課主事	各 務 承 美		

2 次第

- (1) 岐南町長あいさつ・笠松町長あいさつ
- (2) 次代を担う人財を育むために、児童生徒にどのような学びの場を提供すると
よいか（教育長）
- (3) その他

3 議事

（10時30分開会）

事務局 時間になりましたので、ただ今から 令和3年度岐南町・笠松町 総合教育
会議を開催いたします。

はじめに、幹事町の小島岐南町長がご挨拶を申し上げます。

岐南町長 おはようございます。本日は雨の中、ご出席頂き誠にありがとうございます。
本日は、次代を担う人材育成がテーマということです。子どもが二町、そし
て社会に貢献できるような教育をしていただきたいと思います。その

ためには、確かな学力や豊かな心、健やかな身体も大切で、そのバランスの取れた人格を形成をしていけたらと思います。やはり、子どもには、分かる喜び、考える楽しさを培ってもらいたいと思いますので、本日の会議を楽しみにしています。皆様の活発なご意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございました。続いて、古田笠松町長からご挨拶をいただきます。

笠松町長 おはようございます。一足早い梅雨で、雨が降り続き、木曽川もかなり増水しており、去年のように大きな被害が出ないことを祈っています。

さて、コロナの感染も、最初の緊急事態宣言から一年が過ぎましたが、感染者の拡大が止まらず、21 町村のうち、ワースト 1 が笠松町、ワースト 2 が岐南町と、羽島郡でワンツーフィニッシュの状態です。

笠松町では、外から家庭内に、家庭内から外への感染と負のスパイラルをなんとか学校だけでも止めたいという思いで、予防的な検査として、小中学校の職員に定期的な PCR 検査を実施しています。

コロナによって、大きく社会も変わり、学校教育も変わらざるを得ないと思います。今までのような発想、常識、仕組みが一切通用しなくなる本格的な変化は、コロナの収束後にやってくるのではないかと、そして、その後にまた後手に回るようでは現場も混乱しますし、子どもたちへの影響もあると思います。そのため、今のうちにアフターコロナを見据えて皆様方から知見をいただき、議論していければと思います。

羽島郡の教育を一步先に行く教育にしていく必要があると思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございました。それでは、「次代を担う人材を育むために、児童生徒にどのような学びの場を提供するとよいか」を議題といたします。野原教育長から、説明をお願いいたします。

教育長 改めましておはようございます。今日は、先ほどご紹介されましたテーマでご説明させていただいた後に、皆様から率直なご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(資料説明略)

事務局 ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見はございませ

んか。岐南町長いかがでしょうか。

岐南町長 一番感じたのは、やはり家庭での親子での時間が必要だということです。現代は、親子の会話がほとんどないので、そういった時間を持つこと、さらに家族の共通の話題を持つことで親子の絆も深まるのではないかと思います。今は、子どもは、食事後すぐ自分の部屋に戻ってしまいますし、勉強が難しく、小学生なら教えられますが、お父さんお母さんが教えられないことも多く、その辺をどう解決していけばいいか難しいとは思いますが、やはり、分かりやすい授業をしてもらえるといいのではないかと思います。教育長も大学入試の問題を時間かけて解きましたと言われましたが、私も時々高校入試の問題を解きます。解けるときはやはりうれしいものですが、そういう時間を持って子どもとの会話を大事にもらえればと思います。なお、非認知能力という言葉は、分かりにくいので、もう少し具体的に説明しても良かったのではと思いました。

教育委員 岐南町長が家庭教育のことを言われましたので、お話したいのですが、今、学校教育は大変課題を抱えており、学校教育の入り口である家庭教育、幼児教育が、社会問題の一丁目一番地ではないかと思っています。特に、羽島郡の二町には、困難を抱えた家庭が多く、さらにコロナによってその困難さが増している家庭が散見されています。家庭教育だけでなく家庭生活の底上げが必要だと思います。なかなか難しいと思いますが、どうしてもお願いしたいのは、幼児教育は教育部局だけの問題ではなく、福祉部局も含めた問題ととらえ、協力、お力添えいただきたいと思います。

事務局 ありがとうございました。そのほかございましたら、お願いいたします。

教育委員 アフターコロナと古田町長も言われましたが、コロナ禍で生まれたものをうまく活用していただけるとありがたいと思います。これからは、オンライン授業等が当たり前の時代になっていくと思われますので、コロナ禍でのオンライン授業に留まるのではなく、学校に行けない、いわゆる不登校の子どもにも同じように、授業を受けさせられる環境ができたと思います。今は、それぞれにタブレットが行き渡っていますので、うまくオンライン教育を進めていただければと思います。一人の先生がセッティングして、39人は学校で、1人は家でという授業もできるのではと思います。あと一つ、子ども目線での教育をしてほしいと思います。いところが授業参観に行ったのですが、歩いてきてくださいと言われ、学校に着いたら車が

一台もなかった。子どもと同じように歩いて学校に行くことを経験してみるとということかと思いますが、子ども目線を大事にしてもらいたいと思います。

特に、オンライン授業については、ぜひ進めていただきたいと思います。

教育委員 今の時代、非認知能力を養成することが大事だというお話でした。個々に応じた指導が大事なのは言うまでもなく、個々の能力をどうやって見つけるのか、探るかですが、まずは知識をインプットし、土台を作ってから見つけることが大事だと思います。それには教職員の資質として、いろんなことをインプットして経験させ、この子は何に優れているのか、この子はやりたくないのか甘えているだけなのか、家庭だけでなく、先生の方で見つけてあげてほしいと思います。また、ネットなどにあふれている知識を取捨選択する能力をつけることも大事だと思いますので、そういう教育を望みます。

笠松町に対してですが、今日も来るときに、大きく「注意」と書かれたポスターのようなものが電信棒に掲げられており、そこには笠松町建設課と記され、笠松町の交通事故防止の対策を心強く思いました。

また、国際交流としてグアムなどとの交流も、今年に行けるかわかりませんが、電子機器などを使って工夫してやっていただきたいと思います。

強い子、柔軟な子、リーダーシップの取れる子が育てばと思います。

教育委員 私の例ですが、今朝、子どものお弁当を作っていたのですが、雨が降ってきて子どもを送らなきゃいけない、さらに検尿の提出日でもあったことから、バタバタしていました。夫に手助けをお願いし、私は何とかすることができましたが、その時、シングルの方などは、こんな時どうするのだろうと考えたわけです。生活にいっぱいいいっぱいで、相談する人もなかなかなくて、幼児教育をしたくてもできない方もいます。教育だけでなく福祉の面も含め家庭のことを考えていただけると良いと思いました。

事務局 ありがとうございました。笠松町長、いかがでしょうか。

笠松町長 色々なご意見ありがとうございました。教育は子どもたちの将来のためだけでなく、国や地域の発展につながる人材育成が大きな目的・課題だと思います。この一年を振り返ると、アベノマスク、定額給付金、ワクチン接種と完全にデジタル敗戦、ワクチン敗戦でした。

台湾ではオードリータンというデジタル大臣が、コロナの対策で大変活躍

されたと聞いていますが、良い人材が生まれ、登用できる社会が伸びていくのではと思います。日本は柔軟性に欠けており、今回のコロナは、大きな社会変容ですが、それに対応できないのは、日本の社会システムが時代遅れだからだと感じました。

今の日本人が、自由や権利を主張する一方、同調圧力などで窮屈で当たり障りのないことしかできないのは、日本人に生きる軸がないからであり、社会情勢や国力低下につながっているのではと思います。

これから大事になるのは、知識を基本とし、その知識を正しく使い、自分なりに考えて意見を伝え、相手の意見も尊重する、そのベースとなるのが非認知能力ではないかと思います。それには、まず、大人自身が多様性への差別や偏見をなくし、またシングルなど貧困、格差がある社会では一体感が生まれないので、教育と福祉、子ども庁という構想もありますが、小さい市町村でも一体となって、自立を促すために考え、意見を出し合い、取り組みをし、羽島郡モデルとして、ここに住みたい、学びたいと思ってもらえるような地域社会をつくっていったらと思います。

学校だけでなく地域社会を巻き込んでやっていったらと思いますので、また皆様からいろんな知見等をどんどんいただき議論していったらと意を強くしたところであります。

事務局

いろんなご意見をいただき、本当にありがとうございました。教育長から説明がありましたように、これからの創造社会を行政・学校・家庭が連携して子どもたちの個性をどう発揮できるか、前向きな行政の取り組みができるようにしたいと思いました。お時間となりましたので、これにて令和3年度岐南町・笠松町総合教育会議を閉会させていただきます。本日は皆様方、お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。お足元が悪いですので、お気を付けてお帰りください。